

出題のねらい

英語の基礎力を正確に習得できているだけでなく、その基礎力を日常生活やアカデミックなシーンにおいて実際に運用できるかを試すことが出題のねらいです。

大問Ⅰは、文法、語法と語彙の基本知識の定着をみています。大問Ⅱの長文は、ハロウィーンの起源を古代ケルト人の風習として説明しています。空所を埋める適当な表現を見つけるためには、文脈を正確に理解するとともに、文法や語法の知識も必要になります。大問Ⅲは対話の問題です。Lisa が Brian に電話して和食のレストランに誘っています。空所の前後から自然な会話の流れを理解するコミュニケーション能力が、要求されます。大問Ⅳの長文は、学校教育での ICT の活用の利点について述べています。文脈をたどりながら、内容を正確に捉えることが大切です。

【Ⅰ】

【解答】 (26点)

1	②	2	①	3	④	4	②	5	②
6	④	7	④	8	①	9	③	10	④
11	②	12	②	13	③	(各2点×13)			

【解説】

- (1) 動詞の語法問題です。
- (2) 原級の比較表現 (as...as) の問題です。
- (3) either...or...の表現の問題です。
- (4) to 不定詞の否定表現では to の直前に not があります。
- (5) 先行詞を含む関係代名詞の問題です。
- (6) in a few months があるので未来形の文です。
- (7) 定冠詞が単位を表現します。
- (8) 文意から適切な表現 any time を選びます。
- (9) without のあとは動名詞が適切です。
- (10) so + 形容詞 + 不定冠詞 + 名詞の語順になります。
- (11) 仮定法の問題です。
- (12) 所有代名詞が適切です。
- (13) 動詞 sell と結びついた前置詞の問題です。文意から適切な表現を選びます。

【Ⅱ】

【大意】

ハロウィーンは毎年10月31日に祝われるお祭りである。世界中の多くの人々が、衣装を着たり、菓子をねだって家々を回ったり、仮装パーティに出席したりして、ハロウィーンの祭りに参加する。その人気にもかかわらず、多くの人々はハロウィーンの古代の起源について知らない。

ハロウィーンは古代の祭り Samhain に遡る。Samhain は、いまはアイルランド、スコットランド、マン島である地域に2000年前に住んでいたケルト人によって行われた祭りである。彼らは11月1日に新年をお祝した。ケルト人にとって、この日は夏の終わりと冬の始まりを記していた。新年の前夜、死者と生者の境界が弱まり、死者が地上に戻ってくるができる、と彼らは信じていた。

この時間帯に、戻ってきた幽霊はいたずらをして作物に悪さをした。幽霊を喜ばすために、人々は菓子や食べ物を家々の前に置いた。さらにケルト人は、精霊が存在することで、ケルトの聖職者、ドルイド教徒が未来について予言することが可能になると、信じていた。ケルト人は繰り返し巨大なかがり火を作り、そこに集まって神々への犠牲を捧げ、特に収穫と健康について来年の予言を行った。

お祭りに行く途中に幽霊に会うことを、多くのケルト人は恐れた。そこでしばしば、通常は動物の頭や皮の衣装を着た。この衣装によって、幽霊に人々を別の幽霊だと誤解させようとした。こうした古代の衣装が、実は、子どもたちが衣装を着て「いたずらか、ごちそうか」と言って家々を回る風習へと変わっていったのだ。

【解答】 (20点)

14	①	15	⑦	16	④	17	②	18	③
19	⑧	20	⑤	21	⑨	22	⑦	23	⑥
(各2点×10)									

【解説】

ハロウィーンの起源について説明する文章です。難易度の高い語彙は使われていませんので、空所の前後の単語に注意しながら、まず入るべき品詞を確認します。そして、文脈から意味を捉えて読み進めると解答を見つけることができます。

【Ⅲ】

【解答】 (21点)

24	⑧	25	⑨	26	③	27	②	28	⑤
29	⑥	30	⑦						

(各3点×7)

【解説】

Lisa が Brian に電話して和食のレストランに誘い、和食について説明をし、最後にはそのレストランにふたりで行く約束をしています。対話文は情報のやりとりになりますから、話の展開に注意してください。

【Ⅳ】

【大意】

ますます多くの学校が教室にテクノロジーを組み込む方法を探している。モバイル・テクノロジーを教室に入れることが、生徒の将来を準備する手助けになるだろうと、多くの教育者は感じている。とりわけ、教室でのテクノロジーは生徒の動機付けに役立つ。テクノロジーによって、生徒は学習を楽しみ受容し、学習がひとつの過程であることを理解できる。生徒が新しい情報と疑問への答えを探するとき、「探求的学習」と呼ばれるある過程に関わる。探求的学習とは、生徒が探索し、概念と発想の間の諸関係を発見する過程である。探求的学習は生徒中心である点で伝統的学習と異なり、教員からの伝統的講義にあまり依存しない。探求的学習はキャリア学習の土台、つまり生徒が将来の仕事で成功するために活用する必要のあるような種類の習慣を形成する。キャリア学習者は、継続的に新しい情報と彼らが行うことを改善する方法を探し求める。これは仕事場、とりわけたえず変化し新しい骨の折れる難題を提示する仕事場において、重要な技能である。

多くの雇用者は新しい被雇用者に批判的思考の技能を求める。批判的思考は、仕事を理解しその遂行のための最上の戦略を思いつく能力を伴う。雇用者は、何をする必要があるのか説明するために時間を無駄にしたいくない。多様なデジタル情報源とツールにアクセスすることで、生徒は創造的かつ効率的に仕事をやり抜く習慣を形成することができる。

世界中の多くの学校は「1対1」や「結合した教室」のような目標を持っている。これは、すべての生徒がモバイル機器を持ち（ひとりの生徒に対してひとつの機器）インターネットにアクセスする、という意味である。このために、学校は生徒一人ずつにタブレットかラップトップを与えるか、BYOD（あなた自身の機器を持ってくる）プログラムを促進している。それでも、学校によって機器が与えられようが、生徒が学校に持ってこようが、い

れにしても、生徒は機器に対して責任をもつ必要がある。生徒はさらに責任感のあるデジタル市民になる必要がある。これは、生徒はオンライン上での自分の行為の結果を認識するべきである、という意味である。いかにしてチャットやメッセージ・グループのようなオンライン上のコミュニティに責任をもって関わるべきか、いかにして質の高い情報と質の低い情報を区別すべきか、いかにして自分のデジタル上の足跡を最小限に抑えるべきか、について生徒はしばしば教わり練習する。これらが、生徒が責任感のあるデジタル市民になるために重要な技能のすべてである。

インターネットとデジタルテクノロジーによって、誰でも、どこでもいつでも、何にも誰にも、結びつくことができるので、潜在的力が協働のために成長してきている。テクノロジーは生徒がともに働くことを促進する。そのうえ、テクノロジーは、諸個人がコミュニケーションをとってチームのプロジェクトに基づいて仕事をする機会を生み出す。こうした協働的努力によって、時間と場所に制約されずに、誰もが互いの力を共有することができる。協働的環境の中では、生徒は、矛盾を解決するためにもともに働くだけでなく、協働できるようになり、差異を認識し尊重できるようにする。

教室でのテクノロジーの利点として最後に挙げるのは、生徒が創造性と自信を育む機会である。テクノロジーがもたらすものを活用する諸方法において、テクノロジーは自由な表現を備えている。生徒は、実際にそうなのだが、自信を育んでもいる。生徒が自分の発想を表現するために、テクノロジーの潜在的力から多くのものを引き出せば引き出すほど、それだけですます、生徒は自分自身と自分の能力を信じるようになる。難問の答えが難しすぎてわからなく思えるような時期が来ることは、避けられない。生徒が獲得した技能と生徒が育んだ自信によって、こうした困難を克服するための解決策と戦略を発展させるために必要とされる技能と情報源とを自分が持っていることを思い出すことができるであろう。

【解答】 (33点)

31	③	32	①							(5点)
33	②	34	①							(5点)
35	②	36	⑥	37	⑦	38	⑧			
								(順不同 OK)	(各5点×4)	
39	③							(3点)		

## 公募制推薦入試／英語(前期)

---

### 【解 説】

#### 問 1

(31) (32) 空所 A は、what needs to be done となります。

(33) (34) 空所 B は、the more they learn to となります。

#### 問 2

① 第 1 段落にある記述は、異なる内容を語っています。

② 第 1 段落に、内容が一致する記述があります。

③ 第 1 段落にある記述は、異なる内容を語っています。

④ 第 1 段落にある記述は、異なる内容を語っています。

⑤ 第 2 段落にある記述は、異なる内容を語っています。

⑥ 第 3 段落に、内容が一致する記述があります。

⑦ 第 3 段落に、内容が一致する記述があります。

⑧ 第 4 段落に、内容が一致する記述があります。

⑨ 第 5 段落にある記述は、異なる内容を語っています。

⑩ 第 5 段落にある記述は、異なる内容を語っています。

#### 問 3

この文章は全体として、教室でテクノロジーを活用する利点について説明しています。